

南スーダン危機における 和平プロセスと今後の展望

坪井 麻記

@東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
2017年10月6日

2013年危機の背景

2013年

- 07/23: 内閣解散(含、リエク マチャール副大統領)
- 12/14: SPLM National Liberation Council (NLC)
- 12/15: NLCがSPLM Manifest & Constitutionを採択
- 12/15夜: 大統領警護隊が衝突
- 12/16: 大統領がマチャール支持派によるクーデタ未遂と表現 → 現在の危機へ

→ マチャールは抵抗運動を組織 (SPLM/A-IO)

→ SPLMリーダー拘留 (SPLM Former Detainees

↳ SPLM Leaders)

危機～和平合意

- 2013年12月：危機勃発
- 2014年1月：敵対行為の停止合意
- IGADによる調停（アディスアババ、エチオピア）
- 2015年1月：SPLM 再統合合意
- 2015年8月：和平合意 → JMEC
└ 停戦宣言

和平合意

- 第1章: 国家統一移行期政府
- 第2章: 恒久停戦、治安
- 第3章: 人道支援
- 第4章: 経済・財政
- 第5章: 移行期正義
- 第6章: 憲法
- 第7章: Joint Monitoring & Evaluation Commission (JMEC)
- 第8章: 和平合意の優位性

和平合意 第1章(移行期政府)

- 移行期政府の構成: 政府(IG)、反政府(IO)、元拘留者(FDs)、2014年6月のAddisシンポジウムに参加したその他の政党(Other Political Parties)
- 行政部: 大統領、第一副大統領、副大統領
- 内閣:

政府 (IG)	: 53% - 16 大臣
反政府 (IO)	: 33% - 10 大臣
元拘留者 (FDs)	: 7% - 2 大臣
その他政党(OPP)	: 7% - 2 大臣

- 第2章(停戦合意、治安)
 - 2014年1月敵対行為の停止合意
(全ての勢力に適応)
 - 除隊、集合、兵舎 → 勢力の統合

 - 第5章 (移行期正義)
 - 真実・和解委員会
 - ハイブリッド法廷
- ダン
- アフリカ連合 & 南スー
2013年12月以降の犯罪
- 第7章 (Joint Monitoring & Evaluation Commission)
 - 和平合意実施のモニター & 監視

移行期～新たな局面

- 2015年12月：反政府 (SPLM/A-IO)が帰国
- 2016年 4月：IOリーダー、リエク マチャール帰国

～ 移行期発足 ～

- 2016年7月：危機 → 新たなフェーズ

- + エクアトリアの不安定化
- + 新たな武装勢力の出現 (with/without IO)
- + コミュニティー間暴力

様々なレベルの争い

- 同じエスニックグループ内
- 異なるエスニックグループ間
- Upper Nile / Equatoria/ Bahr el-Ghazal
- 権力



復讐の文化

- 南スーダンを取り巻く周辺地域
- 世界



平和維持、平和構築、開発、縄張り、代理、地政学

和平合意実施への課題

- 南スーダン: 政治的意思
 - 停戦合意無視 / 軍事的解決 → 不安定
 - 例. 28/32州制度の導入
 - マチャール - IOの排除
 - 政府による現状維持
 - IGAD内部の統一立場
 - SSパートナーの国益追及
- +
- 紛争形態の変化 (南スーダン内)
 - 民族アイデンティティ > 国民アイデンティティ
(対ハルツーム、対エスニックグループ、対clans ...)

並行するイニシアティヴ

- IGAD High-Level Revitalization Forum
(× 再交渉、新しい予定表)
 - 国民対話
 - SPLM 再統合
- “Inclusivity”
- 他国間/二国間イニシアティヴ
(政治 / サポート・援助 / 制裁)
 - 市民社会、宗教団体 (教会主導の草の根対話)

今後の展望

- IGAD High-Level Revitalization Forum
= 最後のチャンス
- 国民対話
- SPLM 再統合
- SS “パートナー”の国益
- 制裁の効果
現状 → 選挙
- 不安定
 - └ 政治、治安、経済、人道

コメント・質疑

&

ありがとうございました